JWSF
Japan Wheelchair Seating Foundation

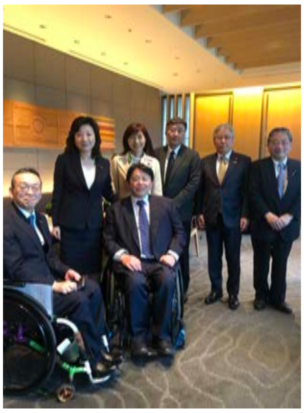
日本車椅子ｼｰﾃｨﾝｸﾞ財団
財団通信 2020 年春号

2020 年 4 月 1 日　第 4 号

一般財団法人日本車椅子ｼｰﾃｨﾝｸﾞ財団， 〒105-00141,東京都港区芝 2-2-12-301
http//www.wheelchair-seating.org/　E-mail:info@wheelchair-seating.org

この号の内容

1 2020 年財団活動計画と議連・役員紹介　木之瀬　隆
2 身体拘束解説　財団ﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌ
3 ISS 参加報告　川畑　善智
4 財団活動報告
編集後記　川畑　善智



シーティング議員連盟の先生方と新年昼食会
2020 年 1 月 27 日

1．2020 年度財団役員と活動計画

日本車椅子シーティング財団代表　木之瀬　隆

ご挨拶

新型コロナウイルスの拡散で日本だけでなく世界中が大変な中にあり、皆様方それぞれお忙しい中、お見舞い申しあげます。私どものシーティング財団は 2016 年に設立し、2017 年には疾患別リハビリテーション料に「シーティング」が入り算定が可能となるための活動などをしてきております。2020 年度には介護保険制度の中などでシーティングの位置づけなどを検討している最中にあります。そのためには、財団組織の強化が必要であり、昨年から理事、顧問を増員してシーティングと福祉用具に関する課題解決に取り組んでおります。今回はこの誌面にて役員メンバーの紹介と 2020 年度の主な活動計画案を紹介いたします。

１．役員メンバー

・理事会（50 音順）：監事
木之瀬隆、芝崎泰造（2019 年 12 月より就任）、山崎泰広、松本芳樹、古谷彰則、川畑善智、：監事　光野有次
・評議委員（50 音順）：評議委員長　髙木憲司、佐野公治、岡島正和、田中理
・顧問：大鍋寿一（2019 年 9 月より就任）
・国会議員顧問（敬称略）：野田聖子、左藤章、髙橋ひなこ、小川克己、安藤たかお

２．活動計画案

1．世界標準のシーティングを基本とした専門家教育の提供を目指し、その一環として国際シーティング･シンポジウムの日本開催の準備を進める。２．障害者団体、全国脊損連合会、頚髄損傷連絡会などと連携し、ユーザーの車椅子シーティングに関する知識の共有として研修会の企画や講師派遣などを支援する。3．車椅子や車椅子シーティングに係る医療・福祉、工学、行政、そして製作・供給事業者団体等の連携を目的とした合同シンポジウム開催及びそれら団体の情報収集と発信。4．「シーティングで自立支援と介護軽減を実現する議員連盟」を通じての政策の提言などの役割を担う。5．車椅子シーティングにおける身体拘束予防の解説報告書の発行と合わせて関係機関、団体との連携を深める。

6．現在シーティングが普及していない自動車上、電動車椅子、スポーツそして慢性期や急性期など新規分野開拓に向けてシンポジウム等の開催や情報発信。など

上記の活動計画を円滑に進めるためにも理事・評議員一体となり、皆様方とともにシーティング普及定着に向けた活動に邁進する決意です。

一般財団法人日本車椅子シーティング財団
身体拘束ワーキンググループ

（表記の解説書を 2020 年 1 月に財団より発行いたしました。その中から特に重要な座位保持装置や車椅子で使用するベルトや、テーブルなどの扱いについて紹介します。解説書全体は HP にあります。）

快適で安全な姿勢保持のためのベルトの用い方

１）　一次サポートと二次サポート

自分自身で適切な姿勢を保つことが難しい障害児、障害者、高齢者にはシーティング理論に基づいた、クッションやバックサポートが必要である。

シーティング (姿勢保持) の主となるサポート(支持) は、座面と背面によって行われる。これは「一次サポート(Primary Support)」と呼ばれ、姿勢の土台となる骨盤を中立な状態に保持することに使われる。

クッションは座圧の調整だけでなく、①骨盤の前ずれ防止、②片側への傾き防止、③骨盤の回旋防止、などの機能があり、適宜選択する。バックサポートは、骨盤の後傾を防止して円背を改善したり、胸郭を開いて安定性を向上させるなどの機能がある。①一般的な背布、②張り調節式の背布、③ソリッドバック、④モールドタイプ等の種類があり、後方や側方からの適切な支持が得られるものを選択する。

適切な一次サポートを提供することで姿勢が安定し、大半の使用者は快適で機能的、そして体に良い(二次障害を防止する)姿勢が得られることも多い。

しかし重度な障害者や側弯等の変形のある椅子（座位保持装置）や車椅子使用者には、一次サポートだけでは姿勢が安定せず、姿勢が改善しない者も少なくない。その時に使用されるのが二次サポートである。

二次サポートには、ポジショニングベルト、トレイテーブル（車椅子テーブル）、ヘッドサポート、ラテラル(体幹)サポート等がある。これらの二次サポートを適切に提供することで、一次サポートだけでは改善できなかった姿勢の改善、二次障害の防止、快適な座位、痛みの緩和、離床時間の延長等が可能になる。

重度な障害者にとって二次サポートは姿勢保持に不可欠なものである。

適切なシーティング(姿勢保持)が提供されていない崩れた姿勢のままでベルトを提供してはならない。結果として痛みや損傷に加え、ずり落ちてベルト(胸ベルトや体幹ベルト等)で首が絞まり、窒息など生命に関わる問題も生じる恐れがある。このことは、ベルト（ポジショニングベルト）のみならず、ヘッドレストやカットアウトテーブルの使用についても同様で、まずは適切な姿勢保持を実現した上で用いなければならない。

２）伸縮性のあるベルトによる動的シーティング

シーティング(姿勢保持)で崩れた姿勢を改善するが、改善された姿勢は静的な(動きの少ない)姿勢であることが多かった。欧米のシーティング先進国の専門家は、使用者がもっと自由に動ける姿勢を提供すべきで、動いても姿勢が崩れないようにすべきと考えた。

そこで考案された「動的シーティング(Dynamic Seating)」は、骨盤をしっかり保持することで使用者が自由に動いても崩れない姿勢を提供するという考え方である。

そこで使用される二次サポート製品のひとつが伸縮性のあるベルト(ダイナミックベルト)である。この伸縮性のあるベルトを胸ベルト等として使用することで、使用者は姿勢が崩れて悪い姿勢に陥ることなく、上肢や上半身を自由に動かすことができる。腹筋の低下した使用者でも、前方にある物を取って元の姿勢に戻ることができ、車椅子を操作しても体が倒れなくなる。このようなベルトは身体を拘束する抑制帯ではなく自由な活動、そして自立を支援するベルトとして活用されている。

第３６回インターナショナルシーティングシンポジウムインバンクーバー（ＩＳＳ）参加報告

一般財団法人日本車椅子シーティング財団　川畑　善智

３月４日から６日まで、カナダバンクーバーで開催された第３６回インターナショナル・シーティングシンポジウムの展示及び概要について報告します。

（沿革と概要）例年アメリカとカナダを交互に開催しているＩＳＳですが､北米を中心に南米、ヨーロッパ、オセアニア、そしてアジアから研究者・エンジニア・医療関係者など、シーティングと移動機器に関わる方達が集まる学会としては、世界で最大規模の集まりとなっております。今から４０年近く前、Vancouver の「サニーヒル・ヘルスケアセンター・フォーチルドレン（Sunny Hill Health Centre for Children）」とブリティッシュコロンビア大学(University of British Columbia)を中心として、１９８２年にｽﾍﾟｼｬﾙｲﾝﾀﾚｽﾄｸﾞﾙｰﾌﾟ（ＳＩＧ）の集まりからｽﾀｰﾄした Vancouver での集まりは、今回も 1,000 名以上の参加者を集め開催されました。

３月３日から開催されるプレセッション（演題発表よりも受講者と講演者が近くフリーディスカッションがあることが多い）から始まり、週末の金曜日まで様々な演題が発表され、ポスターセッションも含めて盛り沢山なのですが、初日の様子を展示場の設営をしているところを横目に見ながら、プレセッションをのぞいて回ることも楽しみの一つではあります。

ＩＳＳ会場入り口の様子・配布資料

（機器展示）展示に関してですが、当然シーティングに関する内容が多く、特に車椅子や電動車椅子に関する展示と座面と背面の座位保持に関する展示が全体の８割を占めており（それ以外はベッドや入浴・排泄関連などが少し）その中でも特に電動車椅子に関する展示が、品目数でも面積でもダントツに多くを占めています。これはつまり、北米やヨーロッパのシーティングを考える上で大切な点で、ユーザーの自立支援につながる考え方が優先されており、その最も優先度の高い機器は電動車椅子であることを示しています。例えば日本で開催されるＨＣＲでの展示と比較しますとはっきりその違いがわかります。シーティングに絞り込んだ展示であることは当然ですが、ユーザー本人がいかに快適に車椅子上で過ごすかが優先されており、介護者による介護者のための展示はほぼ皆無です。シーティングはあくまでも障害当事者のＡＤＬ向上とＱＯＬを高めるためのものという考え方が徹底されているのです。

ポスター展示で質問を受ける繁成教授と松本氏・中村氏

展示会場の様子・セッションの様子

（ポスター発表）日本からの発表として、東洋大学の繁成剛教授・北九州療育センターの中村詩子氏・株式会社シーズの松本和志氏らによる３層段ボールを用いた座位保持装置によるア

ジア支援活動のポスター発表があり、多くの参加者から注目を集めていました。セッションでの発表演題としては、以前から報告されていた電動車椅子の適応事例がますます低年齢化しており、１歳にも満たない乳児に対して電動車椅子を処方した例も報告されていました。動画でも見ましたが、確かにケースの疾患や環境によっては、ありえるのかなと思いました。

車椅子などの現物の前で実物を見ながら説明を受ける参加者

（全体を通して）参加者の顔ぶれが若い方が増えた印象を持ちました。２０代・３０代のセラピストの方々がこういった専門的な学会に参加されるのは、これからの業界や学会の将来にとっても大変良いことだと思いました。インターネットでＩＳＳのサイトを訪問していただくとシラバスや写真も公開されていますので、是非ご確認いただければと思います。

（全体セッション全景）

来年の開催はアメリカのピッツバーグでの開催です。シーティングの第一人者であり現代を代表する著名な発明家１００人にも選ばれたローリー・クーパー教授が主導する Human Engineering Research Laboratories (HERL)がある地で、多くのシーティングに関心のある研究者やエンジニア・セラピストが参加して、日本のシーティングを一緒に盛り上げていければと思います。

日本車椅子シーティング財団活動報告

2019 年 11 月 23･24 日　日本ｼｰﾃｨﾝｸﾞｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ
2019 年 11 月 29 日　身体拘束検討委員会開催
2019 年 12 月 17 日　財団理事会
2019 年 12 月 18 日　ｼｰﾃｨﾝｸﾞ議連野田会長訪問
2019 年 12 月 25 日　議連高橋先生打合せ
2020 年 1 月 9 日　JAWS 事務所訪問・打合せ
2020 年 1 月 14 日　厚生労働省老健局訪問
2020 年 1 月 14 日　日本障害者協議会新年会
2020 年 1 月 15 日　厚生労働省社会援護局訪問
2020 年 1 月 17 日　ｻﾝﾗｲｽﾞﾒﾃﾞｨｶﾙ社訪問打合せ
2020 年 1 月 17 日　ﾃｸﾉｴｲﾄﾞ協会新年交流会
2020 年 1 月 27 日　議連・財団意見交換会
2020 年 1 月 27 日　ペルモビール社訪問打合せ
2020 年 1 月 28 日　13 団体ﾃｷｽﾄ･ｶﾘｷｭﾗﾑ委員会
2020 年 2　月 4 日　議連・財団打合せ
2020 年 2 月 14 日　財団・議連開催打合せ
2020 年 2 月 18 日　財団理事会
2020 年 2 月 25 日　議連開催（衆議院議員会館）
2020 年 3 月 3–6 日　ＩＳＳバンクーバー開催
2020 年 3 月 17 日　財団評議員会

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

編　集　後　記

新型コロナウイルスの被害が拡大しています。皆様の関係の方々は大丈夫でしょうか？昨年 12 月に中国武漢市で患者が見つかって以来、わずか４ヶ月で全世界に拡散し現時点での患者数は４０万人以上・死者の数は３万人以上の被害を出すに至っています。このウイルスはワクチンがなく、罹患すると最悪死に至るなど不安が広がります。人類にとって戦争や地震などへの抑止が進む中、ウイルスとの戦いは今後もしばしば人類の生存を脅かす闘いへと繋がっていくことも容易に想像できます。私たちにできることは日常生活の中からウイルス対策を進めていくことが大切ではないでしょうか。手洗いうがいに始まり、密室・密閉・密集の三密を避ける、満員電車や長時間労働も過去のものとなるように努力していきたいです。